

パブリックコメントに対する回答

辰野町立小・中学校あり方検討委員会

「辰野町立小・中学校あり方検討委員会」論点整理に関するパブリックコメントを実施したところ、13人の方から様々なご意見をいただきました。ご意見をお寄せいただいた皆様、ありがとうございました。

それぞれの論点に対していただいたご意見の概要と、それに対する本委員会の回答を以下のようにまとめました。

(a)「急激な少子化を迎えていますが、減少しても子どもたちが多くの友だちの様々な考えに触れ自分の考えを深めること、認め合い協力し合うこと、切磋琢磨し資質や能力を伸ばしていくことが大切である。このことから町内小学校を何らかの形で集約したい。」この論点に対してどのように考えますか。

◎寄せられたご意見

①小学校の集約に賛成のご意見

- 児童数の急激な減少で学級規模が極端に小さくなる。
 - ・10人未満の学級が生まれ、教育環境の維持が難しい。
- 一定規模の集団で学ぶことが重要。
 - ・多様な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨する経験には人数が必要である。
- 中学校も含めた将来的な教員配置の困難。
 - ・2学級編成になると全教科の教員をそろえられない可能性が出てくる。
- 「新しい学校をつくる」という前向きな発想。
 - ・統合をマイナスではなく、夢のある学校づくりの機会と捉える。

②集約に賛成はするが、次の点を懸念するご意見

- 少人数教育のメリットも再評価すべき。
 - ・目が行き届く、個々に寄り添える、集団が苦手な子の居場所になる。
- 多様性への対応が一校化で逆に難しくなる可能性。
 - ・選択肢がなくなり、合わない子の受け皿がなくなる懸念。
- 集約の前に教育のあり方そのものを議論すべき。
 - ・国際社会で活躍する人材育成など、より大きな視点が必要。

③集約に反対・懸念のご意見

- 地域の歴史や文化を背負う学校を簡単に統合すべきでない。
- 住民への説明や議論の順序が不十分ではないか。
 - ・まず地域住民に問いかけるべき、拙速な進め方は禍根を残すのではないか。

◎あり方検討委員会からの回答

- 小学校を集約することの必要性、集約することのメリット等を町民の皆さんにしっかり説明しながら、集約することにより「少子化に対応した新たな学校を創る」という前向きな姿勢が大切だと考えます。
- 集約された学校においても、個性・特性に応じた学び、少人数の学びの推進は必要であると考えています。
- 学校は子どもたちの学びの場であると共に、地域の歴史や文化も担っているということ言うまでもありません。
- あり方検討委員会の提言を受けて町教育委員会が集約された学校の具体的な検討を行うにあたり、集約の目的や将来の教育のあり方を住民の皆さんと共有するため、丁寧な議論が必要であると考えます。

(b)「義務教育の9年間について、小・中学校を分けずに連続した学び、活動ができるようにしたい。」この論点に対してどのように考えますか。

◎寄せられたご意見

①賛成のご意見

- 中1ギャップの解消や、学習・生活・人間関係の安定につながる。
- 教科担任制を導入し、授業が充実するように考えていくことが大事である。
- 異年齢交流や探究活動の充実などが図られる。
- 中学校教員の確保や教育の質向上のために義務教育学校化が必要と考える。
- 最終的には義務教育学校として魅力ある学校づくりを進めるべきである。

②条件付きの賛成、要望、具体的な提案

- 教員側にメリットが大きいなら検討に値する。
- 現場の教員の意見をもっと聞くべきである。
- 小1～4は地域に根ざした学び小5～中3は専門性の高い学びなど、段階的な一貫教育にしたい。
- 専門家による検討も必要である。

③反対のご意見

- 歴史ある学校を簡単に統合すべきではない。
 - ・小規模校の価値
 - ・地域の支えや伝統
 - ・大規模校が優れているとは限らない
 - ・統合ありきで議論が進んでいるように見える。
- 学校が複数あることで子どもの逃げ場が確保されるため、今は小中一貫にすべきでない。

◎あり方検討委員会からの回答

- 9年間の連続した学び、活動のメリットデメリットを、子どもの側、教職員の側からも改めてしっかりと検討し、それらを踏まえた新しい学校づくりが求められています。
- 地域性や子どもの発達段階を踏まえた学校の形の検討も必要かと思います。

(c)「学校を集約することにより生じる課題や、学校と地域とのかかわりが希薄となるかもしれない。」この論点に対してどのように考えますか。また、どのような方法なら解決できると考えますか。

◎寄せられたご意見

①この論点に対しての主な課題

- 地域とのつながりが弱まる懸念。
 - ・集約することで、地域とのつながりやかかわりが少なくなっていく。
 - ・登下校のあいさつや、地域住民との自然な交流が失われる心配がある。
 - ・伝統行事や地域活動への参加が減少する。
- 地域ボランティア活動の継続が難しくなる。
 - ・これまで熱心に活動していたボランティアが、集約後の学校でも、そのまま協力を仰げるかどうか難しい面がある。
- 通学手段・生活環境の変化による不安。
 - ・スクールバス利用など、保護者・児童が経験のない通学方法に不安がある。
 - ・学童クラブの場所など、保育園との関係で再設計が必要となる。
- 地域に子どもがいなくなることによる地域衰退への懸念。
 - ・学校がなくなることによって地域の活力が低下するのではないかな。

②以上の課題に対しての解決策・提案

- 地域と学校の接点を意図的に増やす仕組みづくり。
 - ・「地域を学ぶ日」を設け、地域の歴史・文化を学ぶ機会を定期的に確保する。
 - ・学年に応じて地域へ出向き、「事実から学ぶ学習」を充実させる。
 - ・地域行事に子どもが参加しやすい仕組みを整える。
- 地域ボランティアの再編・活性化。
 - ・地区ごとのボランティアを「地域の集合体」として再構築し、統合後も活かす。
 - ・地域人材を授業に積極的に招くなど、役割を明確化して参加しやすくする。
- 義務教育学校を“地域に開かれた学校”として運営。
 - ・地域学習・行事参加・地域人材活用を教育活動の中心に据える。
 - ・学校と地域が共働する体制を再構築する。
- 通学・生活面の不安への丁寧な対応。
 - ・スクールバスの安全性確保や運行方法の工夫。
 - ・学童クラブの配置を保育園との関係も含めて再検討。
- 旧校舎の地域拠点としての活用。
 - ・旧学校を「新たな地域文化創造の拠点」として活用し、地域の衰退を防ぐ。
 - ・地域の伝統文化を継承する場として位置づける。
- 学習の充実。
 - ・総合学習や体験学習を軸に、子どもの自立性を育む教育を展開。
 - ・地域と連携しながら、子どもの主体性を伸ばす学習環境を整える。

◎あり方検討委員会からの回答

- 寄せられたご意見にみられる課題の中心は「地域とのつながりの希薄化」と「通学・生活環境の変化」です。一方で、これを悲観的に捉えるのではなく、地域と学校の関係性を再構築するチャンスと捉える意見も見られます。
- 解決策・提案としては、地域学習の強化、ボランティアの再編、地域行事への参加促進、旧校舎の活用、安全な通学手段の確保など、地域と学校の新しい関係を積極的につくる等のご意見をいただきました。
- 辰野町の特徴として、地域に支えられている学校、地域に育てられている子どもたちが揚げられます。これら辰野町のよさは、これからも大事にされるべきものと考えます。

(d)「学校を集約しても、自然体験や社会体験など五感を使った学び、キャリア教育など社会とつながった学びを大切にしたい。」この論点に対してどのように考えますか。

◎寄せられたご意見

- 五感を使った体験的学習の重要性。
 - ・自然体験・社会体験・キャリア教育など、体験を重視した学びは学校規模に関係なく大切。
 - ・町の自然・産業・地域との関わりを生かすべきである。
 - ・特にキャリア教育は、継続的に担当できる外部人材が必要。
- より多くの仲間と関わる学びの価値。
 - ・五感を使った体験的学びに加え、多様な友人と関わることで視野を広げる。
- 学校を集約しなくてもこのような学びは可能。
- 本当に学校に任せなければならない学びなのか、家庭でやるべきことはないのか、地域や社会が場を設ける必要があるのではないのか。

◎あり方検討委員会からの回答

- 義務教育における「五感」を使った体験の大切さは、皆さんにも十分ご理解されていると思います。地域とのつながりを大切にしながら、多様な友だちとも体験的な学びを重視した学びが求められます。

(e) その他（自由記載）

◎寄せられたご意見

- ①学校集約・統廃合への賛否と多様な意見。
 - 住民の意見を広く聞くべきという声が多い。
 - 「集約ありき」に見える進め方に懸念がある。
 - 小規模校の価値を重視し、存続を求める。
- ②現状の分析が不十分。
 - 現在の各小中学校のよさや課題等が認識されていない（教職員の声も含めて）。

○小規模校や少人数の学級と学力等との関係が不明確である。

③子どもの学びを中心に考えるべきである。

○子どもの意見表明権を尊重し、当事者の声を聞くべきである。

○多様な背景（障がい、外国ルーツ、特異な才能など）を持つ子どもへの対応を重視すべきである。

○本当に一人一人に向き合い寄り添った学びの場を確保してほしい。

④通学距離・スクールバス等の生活面の課題。

○遠距離通学は子どもへの負担が大きく、基準づくりが必要。

○スクールバスを高齢者の移動にも活用するなど、地域交通との連携も考えられる。

⑤少子化と将来を見据えた教育のあり方。

○少子化が進む中、早期に義務教育学校の検討を進めるべきである。

○一方で、少子化を理由に教育を縮小すると、さらに少子化を招くとの懸念もある。

⑥新しい学びの場づくりへの提案。

○従来型の学校にとらわれず、子ども・大人が一緒に対話しながら新しい学びの場を創るべきである。

○プールを学校ではなく全天候型施設として整備するなど、町全体の魅力向上も合わせて考えていきたい。

⑦地域コミュニティと学校の関係。

○学校は地域の核であり、安易な統廃合は地域の衰退につながる。

◎あり方検討委員会からの回答

○想定を上回る急激な少子化により、5年後、10年後の学校の風景は、今日と大きく変わります。そこで、新たな学校について早期に検討することは極めて重要なことと認識し、ここまで検討してまいりました。

○あり方検討委員会が町教育委員会に提言書を提出した以降は、町教育委員会が具体的な検討を行うようになります。

○検討を進めていく過程においては、保護者・地域の皆さん、児童生徒の意見を聞きながら進めていく必要がありますし、住民説明会等の開催も必要であると考えます。

○学校を集約することは、新たな町づくりです。地域振興や地域の拠点づくり、コミュニティ機能の維持等、今後の町の基本構想の中で、町と町教育委員会が連携して検討が行われていかなければなりません。

⑧教育環境の質と教職員の働きやすさ。

○教員が余裕を持って働ける環境が、子どもにとっても良い教育につながる。

○人的・時間的ゆとりを確保するために、集約は必要である。

◎あり方検討委員会からの回答

○教員の負担軽減は教育の質にもつながるため、今後、町教育委員会において策定される「町立小・中学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」に基づいて実態把握や改善が進むものと考えています。

⑨AI時代の教育への危機感。

- デジタル化・AI時代における子どもの感性の育ちが懸念される。
- 自然体験や地域の環境を活かした教育が重要である。

◎あり方検討委員会からの回答

○(d)でも述べましたが、デジタル化やICTの活用がさらに進んだりAIが導入されたりしても、五感を使った実体験を「学び」の原点としなければならないことは言うまでもありません。

○パブリックコメントでいただいたご意見は、今後町教育委員会と町で検討されていく新しい学校に反映されていくよう、「提言書」の中に付帯意見として載せさせていただきます。